

# 桑名版ブックスタート ゆめはま文庫



## 乳幼児向け絵本リスト

<p>『いないいないばあ』 松谷 みよ子/作 瀬川 康男/画 童心社 (1967年刊)</p> <p>「松谷みよ子あかちゃんの本」として出版されてから、ずっと愛され続けています。 あかちゃんの大好きな「いないいないばあ」が絵本といっしょに楽しめます。</p> 	<p>0歳</p> <p>はじめてセット A</p> 	<p>『ごぶごぶ ごぼごぼ』 駒形 克己/作 福音館書店 (1997年刊)</p> <p>あかちゃんが大好きな、まるいかたちがいっぱい。その〇の中にゆびをいれて遊ぶことができます。 遊んでいるうちに、あかちゃんもいっしょに「ぷぷぷ」と声をだそうとしますよ!</p> 
<p>『がたんごとん がたんごとん』 安西 水丸/作 福音館書店 (1987年刊)</p> <p>がたんごとん がたんごとんと汽車がやってきます。 「のせてくださーい」と待っているのは…。 貨物車がどんどんいっぱいになっていきます。 引っ張っている汽車のお顔も重くなるにつれて変化します。</p> 	<p>『あがりめ さがりめ』 ましま せつこ/絵 こぐま社 (1994年刊)</p> <p>おうちの人の声で歌いながら、リズムに合わせてあかちゃんの体に触れたり遊んであげると、しあわせな思いがあかちゃんの記憶に残ります。 だんだん反応して体を動かしたり笑うようになります。 親子のコミュニケーションにどうぞ。</p> 	<p>『かみさまからのおくりもの』 ひぐち みちこ/作 こぐま社 (1984年刊)</p> <p>あかちゃんの健やかな成長を願って、おかあさんやおうちの人にぜひ読んで欲しい絵本としてリストに入れました。 じんわりと心に響く絵本です。</p> 

<p>『くだもの』 平山 和子/作</p> <p>福音館書店 (1979年刊)</p> <p>身近なくだものがたくさんでてきます。 ページをめくって「さあ、どうぞ。」と声をかけてあげると、あかちゃんもよだれを垂らすくらいおいしそうな絵です。 くりかえしのことばが耳に心地よいです。</p> 	<p>0歳</p> <p>はじめてセット B</p>  <p>あかちゃんは、くり返しの言葉やおもしろい響きのあることばが大好き。耳に残ると、お口を動かしてまねしようとするのも…。あかちゃんのかわいい反応を楽しんでください。</p>	<p>『もこもこもこ』 谷川 俊太郎/作 元永 定正/絵</p> <p>文研出版 (1977年刊)</p> <p>絵とことばがみごとにマッチした絵本の世界へどうぞ！ 「もぐもぐ」・「ぱく」はあかちゃんの好きなことば。 その他、いろんなことばの世界が広がります。 何度でもくりかえして読んであげてください。</p> 
<p>『じゃあじゃあ びりびり』 まつい のりこ/作</p> <p>偕成社 (1983年刊)</p> <p>あかちゃんがはじめて出会うオノマトペ（擬音語）がたくさん出てきます。 あかちゃんはリズムのある言葉が大好きです。 言葉が体験と結びついた時、あかちゃんの世界が、ぐんと広がります。</p> 	<p>『ととけっこう よがあげた』 こばやし えみこ/案 ましま せつこ/絵</p> <p>こぐま社 (2005年刊)</p> <p>「ととけっこう よがあげた」のわらべうたにあわせてページをめくると、元気なにととりが動物のこどもたちを起こしてくれます。 かんたんな節にあわせて毎朝の「おはよう」に使ってください。</p> 	<p>『かみさまからのおくりもの』 ひぐち みちこ/作</p> <p>こぐま社 (1984年刊)</p> <p>あかちゃんの健やかな成長を願って、おかあさんや おうちの人にぜひ読んで欲しい絵本としてリストに入れました。 じんわりと心に響く絵本です。</p> 

<p>『こんにちは』</p> <p>わたなべ しげお/文</p> <p>おおとも やすお/絵</p> <p>福音館書店 (1979年刊)</p> <p>「こんにちは」は、まほうのことば。 ここから、たくさんの出会いが始まる、ということが素敵に伝わる絵本です。 1歳になってはじめての「せいかつ絵本」としてどうぞ。</p> 	<p>1歳</p> <p>よちよちセット A</p> 	<p>『いい おかお』</p> <p>松谷 みよ子/文</p> <p>瀬川 康男/画</p> <p>童心社 (1967年刊)</p> <p>「いいおかお」ってどんなおかおかな？この絵本を読んでいくと、自然に「いいおかお」になりますよ。 「いいおかお」は、しあわせのしるし。 「いいおかお」が、どんどんふえていくといいなあ。</p> 
<p>『でんぐり でんぐり』</p> <p>くろい けん/作・絵</p> <p>あかね書房 (1982年刊)</p> <p>けんちゃんがでんぐりがえりをするよ、ころん。 ねこちゃんもまねして、ころんころん。動物が増える度に、ころん、ころんがふえていきます。 くりかえしのリズムが楽しい絵本です。</p> 	<p>『おつきさまこんばんは』</p> <p>林 明子/作</p> <p>福音館書店 (1986年刊)</p> <p>くらい夜空に、ぽっかりおつきさまがでてきたよ。明るいね。 何度も読んでいると、おつきさまを見た時、自然と「こんばんは」のこたばがでてきます。まんまるおつきさまを見たら、笑っているように見えるかもしれません。</p> 	<p>『うまれてきてくれてありがとう』</p> <p>にしもと よう/文</p> <p>黒井 健/絵</p> <p>童心社 (2011年刊)</p> <p>これは、おかあさんに紹介したい1冊です。 つい忘れてしまいがちだけど「うまれてきてくれてありがとう」の気持ち、大切にしたいですね。 出会ったあの日にタイムスリップできます。</p> 

<p>『どんどこももんちゃん』 とよた かずひこ/作・絵</p> <p>童心社 (2001年刊)</p> <p>どんどこどんどこ、ももんちゃんが急いでいます。くまがとおせんぼしても、坂道でころんだって、行きたいところにまっしぐら。ももんちゃんが子どもから絶大な人気がある理由、わかります。</p> 	<p>1歳</p> <p>よちよちセット B</p> 	<p>『いやだいやだ』 せな けいこ/作・絵</p> <p>福音館書店 (1969年刊)</p> <p>1歳半を過ぎたころから、「いや」と言うことが多くなります。これも子どもの成長のしるし。はじめての自我の目覚めなんです。おうちの人にとっては大変なこともありますよね。そんな時期を絵本が少し助けてくれます。</p> 
<p>『どうぶつのおやこ』 藪内 正幸/画</p> <p>福音館書店 (1966年刊)</p> <p>この絵本には文字はひとつもありません。でも子どもをおひざにのせてページをめくれば、きっといろいろなことばが交わされることでしょう。細密に描かれた、慈しみあう動物の姿が大切なことを伝えてくれます。</p> 	<p>『はなをくんくん』 ルース・クラウド/文 マーク・シーモント/絵 きじま はじめ/訳 福音館書店 (1967年刊)</p> <p>かすかな香りに誘われ、まっしろな雪の中で森の動物たちが見つけたのは…。白と黒だけで動物たちの表情やざわめきが豊かに伝わります。最後のページは、春を見つけた喜びに満ち溢れています。</p> 	<p>『うまれてきてくれてありがとう』 にしもと よう/文 黒井 健/絵 童心社 (2011年刊)</p> <p>これは、おかあさんに紹介したい1冊です。つい忘れてしまいがちけど「うまれてきてくれてありがとう」の気持ち、大切にしたいですね。出会ったあの日にタイムスリップできます。</p> 

<p>『おにぎり』</p> <p>平山 英三/文</p> <p>平山 和子/絵</p> <p>福音館書店 (1981年刊)</p> <p>手のひらを山形にして、たきたてのごはんをぎゅっぎゅっとにぎったら、おいしいおにぎりのできあがり。</p> <p>いっしょに作りたくなりますよ。やわらかな手のひらの温かさが伝わってきます。</p> 	<p>1歳</p> <p>よちよちセット C</p> 	<p>『だるまさんが』</p> <p>かがくい ひろし/作</p> <p>ブロンズ新社 (2008年刊)</p> <p>「だるまさんが」とゆっくり読んで次のページをめくると、「どてっ」とだるまさんがみごとにころんでいます。子どもはこの場面に大喜び。ページをめくる毎に、思いがけないだるまさんの動きと変化に、目がくぎづけです。</p> 
<p>『きんぎょが にげた』</p> <p>五味 太郎/作</p> <p>福音館書店 (1977年刊)</p> <p>にげた「きんぎょ」をさがしましょう！</p> <p>なかなか上手に隠れているよ。次から次へと隠れる「きんぎょ」を見つけると、子どもたちは満足感でいっぱいになります。</p> <p>楽しい「かくれんぼ」絵本です。</p> 	<p>『あおくんと きいろちゃん』</p> <p>レオ・レオーニ/作</p> <p>藤田 圭雄/訳</p> <p>至光社 (1967年刊)</p> <p>あおときいろの丸たちが、ページをめくると主人公になって動きだして見えてきます。泣いている場面や笑ってる場面もほらっ表情に見えてきます。いっしょに指で形をなぞって、おはなしして遊んでいると、知らず知らずに「色」のおはなしになっている素敵な本です。</p> 	<p>『ちびゴリラのちびちび』</p> <p>ルース・ボーンスタイン/作</p> <p>いわた みみ/訳</p> <p>ほるぷ出版 (1978年刊)</p> <p>ちいさなかわいいゴリラのちびちびは、みんなの人気者。</p> <p>お子さんは「ちびちび」の気持ちで、おはなしを聞くことでしょう。</p> <p>愛されているという思いは子どもの成長にとっても大切。</p> <p>おたんじょうびのころ、ぜひ、読んであげてください。</p> 

<p>『ぞうくんのさんぽ』  なかの ひろたか/作・絵  なかの まさたか/レタリング  福音館書店 (1968年刊)</p> <p>ぞうくんが「さんぽ」にでかけます。  かばくんや、わにくんと出会って  いっしょに「さんぽ」にでかける  ことに・・・。  ぞうくんはカモチでやさしいね。さ  いごの「どっぼーん」が気もちよく  て、しあわせな気分になります。</p> 	<p>2歳</p> <p>わくわくセット A</p>  <p>2歳の頃には話す「ことば」が急  に増えてきます。絵本がきっかけ  になること・・・。  子どもにとって絵本は未知の世界  への入り口です。  「きょうはどこへいこうか？」</p>	<p>『はらぺこ あおむし』  エリック・カール/作  もり ひさし/訳  偕成社 (1976年刊)</p> <p>日曜日の朝、たまごからうまれたあ  おむしはすごい食欲です。  月曜日にはりんごをひとつ、火曜日  になしをふたつ、水曜日にすももを  みつつ…と食べる物が増えていき  …。  食べた後は穴が空いているという、  とても愉快なしかけ絵本です。</p> 
<p>『もりのなか』  マリー・ホール・エッツ/文・絵  まさき るりこ/訳  福音館書店 (1963年刊)</p> <p>子どもをおひざに載せて、お互いに  体温を感じながら読んであげてくだ  さい。  白と黒だけで描かれていますが、  絵とことばが「もりのなか」に誘い  出してくれます。  素敵な絵本の世界へさあ、出発！</p> 	<p>『ねずみくんのチョコッキ』  なかえ よしを/作  上野 紀子/絵  ポプラ社 (1974年刊)</p> <p>おかあさんが編んでくれた赤い  チョコッキ。ぼくにぴったり！とねず  みくんは得意顔。あひるが「いい  チョコッキだね。」とちょっと借りて  いったばかりに…チョコッキは伸び  きってしまいますが、最後のページ  で「ふふ」と笑えます。</p> 	<p>『ちよっとだけ』  瀧村 有子/作  鈴木 永子/絵  福音館書店 (2005年刊)</p> <p>なっちゃんは、まだ甘えたいのに赤  ちゃんがやってきた日からお姉ちゃ  んになりました。  「ちよっとだけ」できることが増  えて、一人で頑張る姿が健気です。  時には赤ちゃんに「ちよっとだけ」  がまんしてもらって優先してあげた  いですね。</p> 

『ぐりとぐら』

なかがわ りえこ/作

おおむら ゆりこ/絵

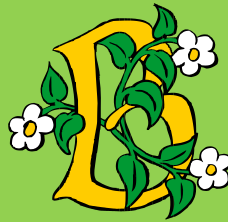
福音館書店 (1963年刊)

のねずみのぐりとぐらがどんぐりひろいでかけると、道の真ん中に大きなたまごが落ちていました。ふたりはおうちに持って帰ろうとしましたが・・・。  
図書館でいつも貸出中になるほどの人気絵本です。



2歳

わくわくセット B



2歳を過ぎると、少し長いおはなしも楽しめるようになります。主人公になった気持ちで絵本の世界に入っていきことも…。子どもは冒険が大好き。絵本で世界が広がります。

『おおきなかぶ』

ロシア民話 A.トルストイ再話  
佐藤 忠良/画

内田 莉莎子/訳

福音館書店 (1962年刊)

おじいさんが「あまいあまいかぶになれ。おおきなおおきなかぶになれ」と言って植えたかぶは、とてつもなく大きいかぶになりました。ことばと絵がよく合っていて、ページをめくるのが楽しくなります。



『おんなじ おんなじ』

多田 ヒロシ/著

こぐま社 (1968年刊)

2歳頃になると、「おんなじ」と「ちがう」に関心がでてくるようです。なかよしの「ぶう」と「びよん」はおそろいのくつに、おそろいのぼうし。「おんなじだね」と声にだしてひとつひとつ、いっしょに見てあげてください。



『14ひきの あさごはん』

いわむら かずお/作

童心社 (1983年刊)

おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん そしてきょうだい10ひきのねずみの大家族のおはなしです。みんなで作った朝ごはんはとってもおいしそう！細かい所まで描かれていて、親子でいろいろ見つけて楽しめます。



『おでかけのまえに』

筒井 頼子/作

林 明子/絵

福音館書店 (1980年刊)

ピクニックに行くのをとても楽しみにしているあやこは、晴れたことがうれしくてたまりません。お手伝いしてくれるのですが、かえって手のかかることに……。親は悲鳴を上げそうな展開ですが、子どもの行動がよく描かれていて温かいです。



<p>『はけたよ はけたよ』  かんざわ としこ/文  にしまき かやこ/絵  偕成社 (1970年刊)</p> <p>子どもは毎日成長します。昨日できなかったことが、今日は、するりとできることもあります。うれしそうに「見て見て！」と何度も見せにきます。お子さんの誇らしい気持ちを大切に、そんな時期に読んであげてほしい絵本です。</p> 	<p style="text-align: center;">2歳</p> <p style="text-align: center;">わくわくセット C</p>  <p>親子で共通の絵本体験を持つことは、しあわせな記憶となります。いっしょに共感して感動を分かちあってください。絵本を仲立ちとした思い出はその場の情景とともにお互いの心に残ることでしょう。</p>	<p>『しろくまちゃんのほっとけーき』  わかやま けん/著  こぐま社 (1972年刊)</p> <p>ほっとけーきを焼く時の「ぼたあん」「どろどろ」「ぴちぴち」「ぶつぶつ」そして、「しゅっ」「ぺたん」と返す音。おいしい体験といっしょになると、忘れられない一冊になるでしょう。2歳頃になると、絵を読んでも、いろいろ発見してくれます。</p> 
<p>『てぶくろ』 ウクライナ民話  エウゲーニー・M・ラチョフ/絵  うちだ りさこ/訳  福音館書店 (1965年刊)</p> <p>「てぶくろ」が動物でどんどんいっぱいになって、きゅうくつになります。そのきゅうくつさを想像しながら、子どもたちは「入れて」や「どうぞ」のくりかえしのやりとりを、とても楽しめます。親子で「ごっこあそび」も楽しんでください。</p> 	<p>『わたしのワンピース』  にしまき かやこ/絵と文  こぐま社 (1969年刊)</p> <p>うさぎさんがミシンカタカタって作ったワンピースはふしぎなワンピース。お散歩していると、まっ白いワンピースから、水玉もようになり、星のもよみになるのです。うさぎさんの「にあうかしら？」の問いかけに、いっしょに答えてあげてください。</p> 	<p>『おとうさん あそぼう』  わたなべ しげお/文  おおとも やすお/絵  福音館書店 (1984年刊)</p> <p>最近「イクメン」なるパパの活躍もよく耳にします。「どんなふうに子どもと遊んだらいいのかな？」という声も…。簡単なふれあいあそびがいくつも載っていて、お子さんと楽しい時間がすごせますよ！</p> 